

パイロット



2026 Summer

Japan Aircraft Pilot Association



<https://www.japa.or.jp>



『公益社団法人 日本航空機操縦士協会のめざすもの』

1. 私達の活動の目的は、定款に定められた通り「航空技術の向上を図り、航空の安全確保につとめ航空知識の普及と諸般の調査研究を行い、もって我が国航空の健全な発展を促進する」ことです。
2. 私達は、定款の目的を踏まえ、将来のあるべき姿として「安全で誰からも信頼され、愛される航空を実現する」というビジョンを描いています。
3. 私達は、目的・ビジョンを達成するために下記を基本的指針に掲げて活動して行きます。
 - (1) 航空の安全文化を構築する。
(組織と個人が安全を最優先する気風や習慣を育て、社会全体で安全意識を高めて行くこと)
 - (2) 地球環境と航空の発展との調和を図る。
 - (3) 航空に携わるもの同士が心を通わせ共存共栄を図る。

パイロット

2026 Summer CONTENTS

「Cover photo by 岡本 豊」

03 会長挨拶 ～ 就任挨拶 ～ / 会長 畑辺 三千夫

04 第61回通常総会開催報告 / 事務局

05 第62期業務執行理事紹介 / 事務局

06 新任理事紹介 / 事務局

07 専務理事挨拶 / 専務理事 池田 晃二

08 中期計画（2026－2028） / 事務局

09 航空機乗組員の健康管理に関する基準等の一部改正について
／（一財）航空医学研究センター 専務理事／所長 五味 秀穂

11 第23回(2025年度)小型航空機セーフティセミナー開催報告 / ビジネス航空(BC)委員会

15 Be a pilot オンラインセミナー “Talk with us”実施報告 / エアライン委員長 大里 将之

18 支部紹介 ～東日本支部～東日本支部の活動について・～九州支部～活動報告
／ 東日本支部 副支部長 本田 厚・九州支部長 三好 恒紀

20 中日本航空株式会社（広告）

21 JAPA団体保険のご案内 / 事務局

22 表彰報告 / 事務局

23 会員 福利厚生のご案内 / 事務局

24 JAPA 案内 / 事務局





会長挨拶 ～ 就任挨拶 ～

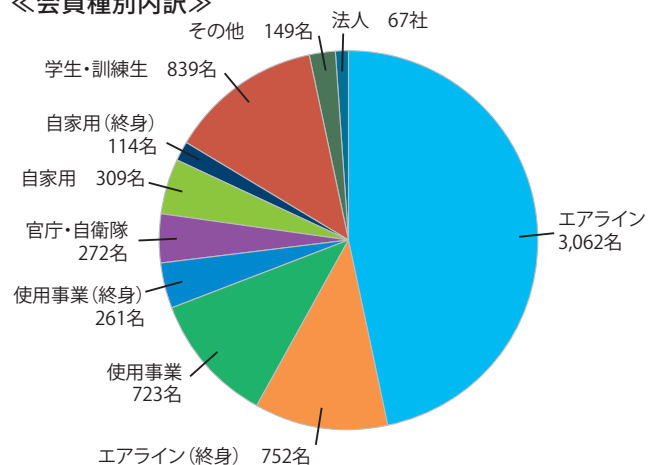
畑辺 三千夫

皆様には平素より当協会の活動に対するご支援とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

去る6月19日に開催された第61回通常総会及び第337回理事会において、当協会の代表理事（会長）を拝命することとなりました。どうぞよろしくお願いいたします。

当協会は1957年に日本の民間航空の再建発展を願う153名のプロパイロットによる任意団体としてスタートし、現在はエアラインから自家用まで各分野で活躍する操縦士に加え、航空を目指す大学生なども含めた約6,500名の会員を擁する公益社団法人として、我が国航空の健全な発展に寄与することを目的に各種の活動を行っています。

《会員種別内訳》

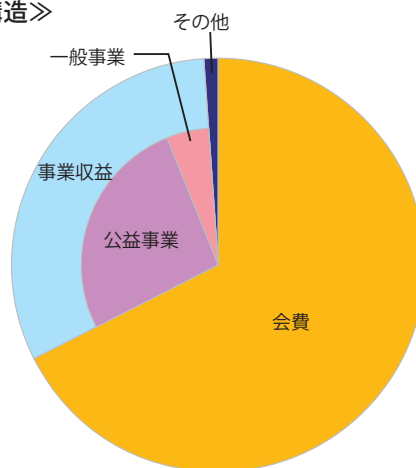


●内なる課題と構造改革

当協会は会員からの受取会費（全収入の7割）と各種事業から得る事業収益が主たる収入源となっているため、会員の入退会や経済情勢の変化による影響を受けやすい財務構造となっています。コロナ禍によって生じた赤字状況（会員減少・費用増大）に対しては、費用削減を中心とした収支改善計画を進めた結果、2025年度決算においてようやく赤字から脱却いたしました。しかしながら、まだまだ安定軌道に乗ったとは言い難く、今期より「中期計画（後述参照）」を策定し、より長い目で将来展望を

見据え、人的・財務的に安定した協会運営を構築すべく組織の構造改革に取り組みます。

《収入構造》



●我が国航空の健全な発展を目指して！

さて、前述の内なる改革を進める一方で、公益法人として果たすべき役割については、・航空の技術向上・安全推進・知識の普及・裾野拡大を基本テーマとし、各種事業を推進してまいります。中でも国の航空政策に基づく技能発揮訓練（CRM訓練）や整備士・操縦士の人材確保については、産官学が一体となって具体的施策を構築しながら取り組みを進めてまいります。また、小型航空機分野においても、特に回転翼航空機操縦士養成については、官民での協議を進めてきた経緯を踏まえ、引き続き求められる役割を果たしていく所存です。

将来の航空を担う子ども達や中・高・大学生の皆さんと現役操縦士や客室乗務員、地上スタッフとの対話型イベントには引き続き力を注いでいくとともに、これまで航空の発展に尽力された方々の各種表彰についても推薦団体としての責任を果たしてまいります。

今期より新たな顔ぶれを加えた役員体制を整えました。個々の力を結集し、我が国航空の発展に寄与すべく努めてまいりますので、会員の皆様はもとより、内閣府、国土交通省、関連団体、各種教育機関の皆様のご支援とご協力を賜りますよう、引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

第61回通常総会開催報告

2026年6月19日（金）15時より航空会館B101号会議室にて第61回通常総会を開催いたしました。

定刻どおり進俊則会長が開会を宣言し、事務局より定款第18条に定められた代議員定数を満たしている旨の報告がなされ、本総会の成立が確認されました。

（代議員総数：50名 出席代議員：22名 議決権行使書提出：28名 委任状提出：なし）



冒頭、進会長より以下の2点について報告と所感が述べられた後、審議に入りました。

1. 決算について

今期、5年ぶりに黒字に転換し、347万円を計上した。3か年の収支改善プロジェクトの最終年度にあたり、会員、関係各位の費用削減への協力、ならびに業務の精密化による予算管理の精度向上が成果として現れたものと思料する。一方で、財務体質は依然脆弱であり、引き続き継続的な改善努力を求められる。

2. 収入比率の見直しについて

現状JAPAの総収入の66%を会費収入が占めており、事業継続の観点からも依存度の高さが課題と認識する。公益事業の適正価格化および一般事業の拡大により収入構造の改善を図る必要がある。公益・一般事業で1,600万円の増収が達成できれば会費収入は60%となる。2年後の実現を来期メンバーに託したい。さらに5,000万円の増収が達成されれば比率は50%となる。4年後の実現を目指し頑張っていただきたい。これらを中期計画の重要課題として来期メンバーへ託したいとの意向が示されました。

議案

審議事項

- 第1号議案 令和7年度事業報告及び決算報告について
- 第2号議案 役員報酬制度の制定（役員報酬規程）
- 第3号議案 定款の変更
- 第4号議案 役員の選任について

概況

全ての議案について、満場一致により、承認されました。

第1号議案および第4号議案についての意見、質問はありませんでした。

第2号議案および第3号議案については、規程、定款の記載内容、文言に対する確認、監事報酬上限額の根拠、予算、決算時の黒字未達の際の報酬の取り扱い等の質疑があり、それぞれに対し、三役より回答し、了解を得ております。



報告事項

- 1. 「中期計画」についての報告がなされました。
- 2. 「令和8年度事業計画及び予算」についての報告がなされました。

概況

報告事項、その他総括的質疑として…

2028年度末会員数7,000名を確保するための方策について⇒準会員獲得キャンペーンにより会員総数は増加傾向にあるが、正会員への移行、定着が今後の課題である旨が説明されました。会員インセンティブの強化として訓練・講習の価格を一般と差別化をより明確にしてはどうか委員会活動等の発信が弱い。JAPAの活動をもっと積極的に発信すべきであるといった意見が寄せられました。

懇親会

総会終了後、18時より航空会館7階大ホールにて懇親会を開催いたしました。今年も会員および関係各位を中心に100名を超える皆様にご来場いただき、終始活気に満ちた会となりました。開会にあたり畑辺(新)会長よりJAPAとして、また会長として責務を果たしていく決意が力強く述べられました。続いて来賓として国土交通省航空局安全部長の石井靖男様より、業界の現状と課題、今後の展望、更には行政との連携を通じた業界発展への期待についてご挨拶を賜りました。その後、協会長表彰として7名の受賞者に記念品が授与され、続いて日本航空技術協会の北田裕一会長に乾杯のご発声をいただき、和やかな歓談へと移りました。会の終盤には、進俊則（前）会長より、任期満了の御礼、新体制へのエール、職員への労いの言葉が述べられ、新旧交代を象徴する温かいひと時となりました。

参加者同士の交流も深まり、JAPAの結束と今後への期待を感じさせる懇親会となりました。



第62期業務執行理事紹介



①最近うれしかったこと ②パイロット人生で忘れられないフライト ③会員の皆様へメッセージ

会長 畑辺 三千夫



- ①70歳を機に麻雀教室に通い、若い頃に覚え損ねた麻雀ができるようになったこと。
- ②2017年9月5日、JAL6便(羽田ーニューヨーク)に乗務した際、離陸浮揚直後に左翼エンジンがトラブルを起こし、房総沖で40分間かけて燃料を投棄し羽田に戻りました。
- ③航空機操縦士を組織する公益法人の運営に携わる者として、我が国航空の健全な発展に微力ながら尽くしてまいります。

副会長 大澤 一郎



- ①
- ②20年くらい前に富士川で乗ったグライダーでのフライト (Pilot人生観変わりました)。
- ③今期で3期目の副会長職となりますが、どうぞよろしくお願いいたします。引き続き安全推進活動に取り組んでまいります。

副会長 船越 篤



- ①弓道初段に合格しました。弓道を始めて2年ほどになりますが、この度やっと審査に合格し初段になりました。
- ②機長としての初フライトです。A300での羽田ー宮崎の便でした。離陸で車輪が滑走路を離れた瞬間、機長としての責任の重さを感じました。
- ③40数年JAPAの幽霊会員でした私が言うのもなんですが、会員の皆様にはぜひ定期的にJAPAのホームページを開いていただきたいと思います。

副会長 西塚 彰



- ①孫娘からもらった手紙『じいじ、ほんとうはすきだよ』。
- ②真夜中のフライト中に遭遇したUFOの編隊 (実はスターリンク衛星だった)。
- ③人生最後の仕事として航空界に微力ながら恩返しをさせていただきます。

専務理事 池田 晃二



- ①小学校や高校の旧友と会う機会が増えたこと。
- ②ジュネーブチャーター便で快晴のスイスアルプスを見ながらレマン湖上空からジュネーブ空港へアプローチした際の美しい景色。
- ③専務理事として3期目に突入しました。今後も航空界の発展のため尽力します。

常務理事 大里 将之



- ①アプリや電子化全盛期の昨今において、複数人で分担して地道な作業で作成しているJAPAパイロット手帳の送付を希望される会員様が予想以上にたくさんいらして、作成担当者としてやりがいを感じています。
- ②一つに絞りが切れません。思い起こすとSIM訓練等では経験できない自然の力を感じたFlightが思い出に残っています。
- ③エアラインパイロットの2030年問題と同様、JAPAにおいても世代交代が急務となっています。ぜひ若手の皆さんの積極的な意見具申やご参加をお待ちしております。

常務理事 小野 和彦



- ①AIと一緒に、思い描いた業務システムを次々と形にできるようになったこと。
- ②三沢空港でのGCA。管制官と息がぴたりと合い、海岸線で風が変わることまで読んだ誘導で、マージナルな気象にもかかわらずスムーズに着陸できた一便です。
- ③学びに終わりはありません。仲間と互いに高め合いながら、安全で豊かな空を次の世代へつないでいきたいと思います。

常務理事 早乙女 一成



- ①自分が作った少年サッカーチームOBから、初めて日本代表が出て、世界大会で銅メダルを取ったこと。(知的障がい者フットサルの日本代表として世界選手権で銅メダル。)
- ②事業用の実地試験での長崎空港から北九州空港へのフライト。今もパイロットとしていられるのは、この時のおかげ。
- ③安全運航の基本は決して変わりません。常に学び続ける姿勢と仲間との情報共有を大切にしてください。

常務理事 管 聖



- ①熊本空港でCessna 172S G1000が2機体制となり、若手パイロットの訓練機会が増え、教育環境がさらに充実したことです。
- ②昨年3月、Citation Mustang (C510) のタイプレーティング取得後、初めてシングルパイロットでファーストソロフライトを行い、責任の重さと達成感を強く実感しました。
- ③JAPAが会員の声を結集し、行政や関係機関との架け橋となることで、日本のゼネラルアビエーションの未来をより安全で豊かなものにしていきたいと思います。

常務理事 山村 洋司



- ①娘がパリで2日続けて昼から立ち飲みにつき合ってくれたこと。
- ②グリーンランド上空でオーロラが見られたこと。
- ③JAPAの会員であることは、個人のメリットだけでなく航空業界への貢献のためと思って、今後もJAPAの活動を支援していただきたい。



新任理事紹介



副会長 西塚 彰

操縦士協会副会長になりました西塚彰です。ANAに総合職、航空機関士、操縦士としてお世話になりました。65歳よりご縁あって長崎にあるオリエンタルエアブリッジ（ORC）に再就職しボンバルディアQ400にて乗務しました。福岡に住み長崎の島々を飛んだ日々は忘れ難い楽しいひと時でした。趣味は美術館巡り、居酒屋探訪（新橋烏森口探索中）、ゴルフ、海岸散歩です。子供3人は独立し家内と2人、小さな海辺の街で老夫婦生活しています。微力ながら航空の発展に寄与できればと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。



副会長 船越 篤

この度副会長という大任を拝命いたしました船越です。私は航空大学校を1980年に卒業後、同年当時のTDAに入社。YS-11、A300、B777、DH8D(Q400)に乗務後、現在はFDAでERJに乗務しています。未だ現役ですが、今年11月末をもってパイロット人生を終了する予定です。これを機会に、長年お世話になった航空界に少しでも恩返しができればと思い、今回のお話をお引き受けいたしました。40数年JAPAの幽霊会員でしたので、皆様のお力をお借りしながら職務を全ういたします。どうぞよろしくお願いいたします。



理事 石原 孝治（運航技術委員会 委員長）

全ての皆様への感謝の気持ちと航空界へ少しでも恩返しをさせていただく機会であると受け止めております。会員の皆様と共に学び、考え、歩みながら、航空安全と航空界の発展に少しでも貢献できるよう努めてまいります。航空安全は、知識や技術だけではなく、人から人へ受け継がれる使命感と責任感によって支えられています。理事として次代を担う皆様の夢を支える一助になりたいと考えております。「全ては安全のために、夢を次世代へ。」よろしくお願いいたします。



理事 榎本 洋孝

新任理事を拝命いたしました榎本洋孝です。消防のヘリコプターパイロットとして防災業務に従事しております。歴史ある本協会の一翼を担うことに身が引き締まる思いです。これからは次世代を担うパイロットの育成環境の整備や、会員相互の緊密な情報共有・ネットワーク作りに注力してまいりたいと考えております。皆様により誇りを持って飛べる環境を目指し、誠心誠意努めてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。



理事 中森 健輔

この度、理事を拝命いたしました中森健輔と申します。現在は日本航空株式会社にて、B767に乗務しております。航空大学校の門を叩いて以来、人生の約半分をパイロットとして歩んでまいりました。これまで育てていただいた立場から、微力ながらも貢献できる立場に、というきっかけをいただいたと感じております。JAPAの活動を通じて多くの方々と繋がれることに感謝し、航空業界の発展に寄与できるよう精進してまいります。どうぞよろしくお願いいたします。



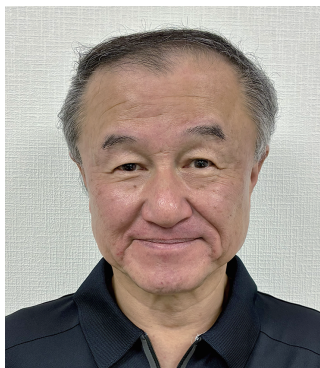
理事 橋本 裕太

バブル期に空へ憧れ渡米し、広大な空で軽飛行機とヘリの資格を取得しました。帰国後は、農林業主体の民間ヘリ会社で様々な内容の飛行経験を重ねる中で会社清算を経験。その後、消防防災ヘリ運航で社会の安全・安心に携わりながら、自己投資もして更なる飛行機の資格を取得しました。現在は飛行機とヘリの二刀流で報道飛行に携わっています。JAPA会員の皆様への感謝を胸に、大空への憧れを支える活動に努めてまいります。



理事 吉松 聖也（ATS委員会 委員長）

この度、理事を拝命しましたANAウイングスの吉松聖也です。現在はB737に乗務しております。1996年から30年間にわたり、ATS委員会運営委員、航空交通管制協会技術委員、防衛省パイロット・管制官、訓練事業会社教官の方々と、「パイロットと管制官のルールベースの共通認識に基づく、安全で効率の良い運航と航空管制」を目指すR/T Meetingの活動に参画してまいりました。“JAPA of the members, by the members, for the members.”を念頭に、魅力あるJAPAの発展に向けて尽力してまいります。どうぞよろしくお願いいたします。



専務理事挨拶

池田 晃二

大暑の折、会員各位におかれましてはご健勝にてお過ごしのことと拝察いたします。

この度、総会後の理事会決議により専務理事に再任されましたことを謹んでご報告申し上げます。過去2期4年の職務経験を基礎とし、今後とも会員各位と連携しながら協会運営および航空業界の発展に向けて一層尽力する所存です。

去る6月19日に開催されました第61回通常総会においては、本号の総会開催報告に記載のとおり、2025年度事業報告ならびに決算報告、定款の一部変更、役員総報酬額、役員の選任が承認されました。また、中期計画（2026～2028年度）、2026年度事業計画および予算についてご報告申し上げました。

2025年度の事業は、3つの柱として「航空の安全に対する取り組みの強化」「航空の裾野拡大の効果的推進」「収支改善による財務の健全化の継続」を実行しました。

「航空の安全に対する取り組みの強化」としては、毎年実施される講習会、シンポジウム、セミナー等の開催および関係省庁主催委員会への委員派遣に加え、「羽田空港航空機衝突事故調査検討委員会」の中間報告を受け、「自家用操縦士等ヒューマンファクターズ訓練検討会」への参画や「技能発揮訓練」制度整備にも寄与しています。さらに、SWIM新規運用開始に際しては利用者視点から実務的意見を提示するとともに、知識提供活動として例年刊行物のほか、「学科試験スタディガイド」「操縦教育証明学科試験ガイド電子版」を発行しました。

「航空の裾野拡大の効果的推進」については、従来の裾野拡大事業に加え、航空局主催の「航空整備士・操縦士の人材確保・活用に関する検討会」を踏まえ、産学官が一体となって当

協会の乗員養成検討委員会において裾野拡大を推進しました。

「収支改善による財務の健全化の継続」では、収支改善プログラムの最終年度に取り組み、年度末決算において数期ぶりに黒字化を達成いたしました。

今年度は、JAPAの事業の中期的な方向性を示す初めての中期計画（2026～2028年度）を策定しました。今号に掲載しておりますので、ぜひご覧ください。

そして令和8年度の事業計画は、中期計画で掲げた重点テーマに基づいて策定され、今年度は「航空安全の推進強化」「航空界の次世代人材育成」「財務体質強化の継続」という3つの柱を中心に、それぞれの事業を進めていきます。

「航空安全の推進強化」の一環として、JAPAは法制化された技能発揮訓練（CRM）を、2026年11月より対象となる操縦士に実施し、安全性のさらなる向上を図ります。

また、既存事業の強化を通じて航空安全に貢献していきます。

「航空界の次世代人材育成」に関しては、航空局ならびに関連団体・企業との連携のもと、実効性の高い裾野拡大活動を推進いたします。

「財務体質強化の継続」では、昨年まで実施してきた「収支改善プログラム3年計画」を基盤とし、事業収益の拡大と経費削減の両面から取り組み、より安定した財務基盤の構築を目指します。

会員各位におかれましては、ご協力ならびに活動へのご参加を賜りますようお願い申し上げます。また、行政当局、関連団体、および関係企業の皆様には、引き続き適切なご指導とご支援を賜りますよう重ねてお願い申し上げます。

最後に盛夏のみぎり、会員のご発展を心よりお祈り申し上げます。

中期計画（2026－2028）

JAPAでは初めて、中長期の方針をより明確にするため、2026年から2028年までの中期計画を策定しました。今後は、この中期計画の重要なテーマに基づいて毎年の事業計画を立て、着実に実行してまいります。

◆ 2026－2028 中期計画の位置付け

- 「2023－2025収支改善プロジェクト」による各種取り組みの結果、2025年度決算においてようやく黒字化を確保したとはいえ、事業項目別分析によれば、財務基盤は依然として脆弱といわざるを得ず、黒字決算の継続化に向けた財務構造の改革に引き続き取り組まなければなりません。
- 協会運営面では、近年の航空界において航空機操縦士の団体としてJAPAが各方面から求められる責任の度合いは年々高まってきており、組織を支える人材の確保を重要テーマとして取り組む必要があります。

このような状況を踏まえ、当協会は新たに「2026－2028 中期計画」を策定し、以下の重点テーマに基づく目標を設定し、その実現に向けた取り組みを開始します。

- ・重点テーマ1：[会員獲得の取り組み強化]
- ・重点テーマ2：[人材確保]
- ・重点テーマ3：[各種事業の赤字幅削減]
- ・重点テーマ4：[安定的財務基盤の確立]

1. [会員獲得の取り組み強化]

総会員数の推移（各年度期末の在籍数）

		2020	2021	2022	2023	2024	2026.2
TTL	有償会員	5,743	5,401	5,236	5,189	5,248	5,275
	無償会員	1,302	1,329	1,403	1,287	1,114	1,263
		7,045	6,730	6,639	6,476	6,362	6,538

'20～'24 5年間で総会員数は、▲683名(ave.▲170名)

準会員獲得の取り組み強化により、2025年度の総会員数は若干の回復を示したとはいえ、コロナ禍以降の会員減少傾向は継続しており、協会の主たる収入源となる会費収入確保のために、以下の具体策を強化します。

【具体的取り組み】

- ・2028年度末における総会員数7,000名を目標とします。
- ・新規会員獲得および既存会員の退会抑止
エアライン、使用事業各社、官公庁等と連携を取り、会員獲得および退会抑止の協力体制を構築します。
- ・準会員獲得の取り組みを継続し、正会員移行水準の向上を目指します。
私立大学生、航空会社訓練生等を主たる対象として、準会員入会を積極的に働きかけるとともに、ライセンス取得後の正会員移行を促す取り組みを強化します。
- ・法人会員並びに賛助会員獲得
法人、個人の入会を促進します。

2. [人材確保]

近年の国内航空界における雇用環境の変化（人員不足、雇用延長等）により、JAPAの協会運営を支える人材の確保は年々厳しさを増しています。このような状況の中、航空界におけるJAPAの役割が重要度を増している状況を踏まえ、協会運営に携わる活力ある人材の確保に取り組めます。

【具体的取り組み】

- ・協会運営に適した人材を確保するために、企業・大学等との連携を図ります。

3. [各種事業の赤字幅削減]

Fly with us、航空教室等の裾野拡大事業や各種セミナー・シンポジウムの安全啓発事業、技術習熟支援事業等の赤字開催の実態を改善し、新規事業の展開による収入増を図ります。

【具体的取り組み】

- ・イベント、講習会、セミナー等の適切な有料化を推進します。
- ・「技能発揮（CRM）訓練」「技量向上支援プログラム」等の新規事業を展開していきます。
- ・書籍等の価格設定においては市場動向を反映した適切な見直しを実施し、収入増を図ります。

4. [安定的財務基盤の確立]

重点テーマ1・2・3の各施策を確実に実現し、安定した黒字基調の財務運営を確立します。

【具体的取り組みと目標】

- ・四半期ごとの決算並びに予算修正をきめ細かく実施し、無駄のない財務運営を図ります。
- ・2028年度末において、経常増減額の目標値500万円の黒字を目指します。

◆ まとめ

「2026－2028中期計画」は単年度ごとに必要な見直しを行うローリングプランとして位置付け、常に新たな改善策を模索し実行に移しながら、健全な財務並びに組織運営の確立に努めます。

航空機乗組員の健康管理に関する基準等の一部改正について

(一財) 航空医学研究センター 専務理事/所長 五味秀穂

2025年10月より、60歳時に行われていた加齢付加検査が撤廃され、それに伴い健康管理に関する制度・基準の見直しが行われましたので、これについて詳細を報告する。

御存知の通りわが国では1991年よりICAO標準を超えて60歳以上の操縦士に対し、通常の航空身体検査に加えて付加検査を実施し、段階的に上限年齢を引き上げ現在では67歳最後の日まで乗務可能となってきた。しかしその後ICAO標準の改正により、現在では複数の操縦士による運航について世界では、65歳未満であれば付加検査を行うことなく乗務可能となっている。

このような状況の変化、また乗員不足という状況下において、我が国の航空運送事業者の確保等の観点から制度見直しが検討され、下記のように2025年10月より基準の一部改正が行われた。

1. 付加検査及び日常の健康管理関係

- 大型機は60歳から、小型機は62歳からとされている付加検査の開始年齢を、65歳からに引き上げる。
- 60歳以上の者を乗務させる場合には2人乗務を求めているところ、最小乗組員数が1人である航空機においては、付加検査に合格している60歳以上の操縦士1人のみで乗務することを認める。
- スクリーニング検査を廃止する。
- 乗員が将来にわたって航空身体検査基準に適合するために特にフォローすべき項目として血清脂質、血圧、血糖、体格指数を定め、それらの管理目標値を設定・周知すること。定期健康診断等の結果からこれらを把握し、必要に応じて指定航空身体検査医へ情報共有することを事業者を求める。
- 管理目標値の参考値を定めるとともに、乗員健康管理医は管理目標を逸脱する乗員に対して必要な指導を行うこと。乗員が所属する部門は、指導を受けた乗員が適切に対応状況を報告できるよう措置することを事業者を求める。

上記が主な改正点であるが、その中での管理目標値の設定例が下記のように提示されている。

(参考) 血清脂質: LDLコレステロール120mg/dl未満かつHDLコレステロール40mg/dl以上

中性脂肪(空腹時) 150mg/dl未満

血 圧: 収縮期血圧130mmHg未満かつ拡張期血圧85mmHg未満

血 糖: 血糖(空腹時) 100mg/dl未満、HbA1cの場合は5.6%未満

体格指数: BMI 25kg/m²未満

(指導にあたっては、血圧高値、脂質異常、血糖高値、喫煙等のリスクや年齢を考慮)

2. アルコールに関する教育訓練及び健康管理の充実並びにアルコールの検査関係

アルコールの管理に関しても内容整備が行われたが、諸般の事情で実施に対して流動的なところもあるため、今回は省略させていただく。

今回の改正のポイントは、国際標準に照らし60歳時の付加検査を廃止し付加検査の開始年齢を65歳に引き上げる代わりに、その年齢引き上げによる安全性の低下や航空身体検査基準に不適合となる操縦士が増加しないよう、将来の長きにわたって健康に乘務を継続してもらうために、若年時よりの健康管理の充実、動機付けの実施による自己管理に留意してもらう仕組みを構築していこうというものである。またそれを実施していく上で、資

格検査である航空身体検査と、労働安全衛生法上の健康管理での定期健康診断とを連携させ、操縦不能に陥らないような仕組みを構築していこうという試みで、ある意味、自主管理が求められてくる大きな制度改革・意識改革と言って良いであろう。

今回の基準改訂の中でも述べられているが、管理目標値は適切に健康管理を実施するために各事業者で定める（定めて良い）指標であり、前述の参考例と異なる数値を定めても良いとされている。またあくまでも管理目標値であって、航空身体検査の合否や乗務可否の基準ではないことも明確に述べられている。（血圧に関しては身体検査基準に数値が明記されている。）

管理目標値は産業医（乗員健康管理医）の立場から、一生を通じて健康であるための目標値を基準とし、将来において「不適合」となる可能性をできる限り排除したいという立場からの目標値である。自身の健康管理と、航空身体検査（資格）を維持するための最低限の健康管理とのギャップをどう埋めていくかは、乗員自身の判断となってくる。また管理目標値を逸脱する操縦士への指導やフォローアップについては、乗員健康管理医を含む航空会社の健康管理部門だけでなく、航空会社の各部門が協力することも求められている。ただし個人情報が適切に取り扱われることが前提条件である。



第23回 (2025年度) 小型航空機セーフティセミナー開催報告

ビジネス航空(BC)委員会

「第23回小型航空機セーフティセミナー」(主催：公益社団法人日本航空機操縦士協会/後援：国土交通省航空局)を2026年2月5日(木)、6日(金)の2日間、航空会館での対面とWebを併用したハイブリッド形式で開催し、2日間で延べ215名の皆様にご参加いただきました。セミナー当日のダイジェスト動画はJAPA YouTubeチャンネルで公開中です。



主催者挨拶

日本航空機操縦士協会 副会長 畑辺 三千夫
司会 日本航空機操縦士協会 事務局 鯨井 秀美



2024年に発生した羽田空港における航空機衝突事故を受け、航空局を中心に再発防止対策が進められております。その中でも、小型航空機の操縦者も対象となる技能発揮訓練につきましては特に関心の高い事項であることから、航空局担当者様にご講演いただきます。また、本年は新たに不時着対応訓練の紹介および航空身体検査に関する内容も盛り込みました。本セミナー(2日間)が、今後の皆様の安全運航に少しでもお役立ていただけたら幸いです。



●講演1 「航空局基調講演」

国土交通省航空局安全部 安全政策課長 梅澤 大輔 氏

「小型機を中心とした最近の航空安全行政の動き」をテーマにご講演いただきました。航空局においても小型航空機の事故は昨年より増加していることから、引き続き安全対策の推進が必要であるとのこと説明がありました。その一環として、「小型航空機の安全情報」ホームページのレイアウト改善や、掲載内容の充実が図られているとのこと。また、メールマガジンにおいては新たに海外事例の紹介もありました。



●講演2「AFIS空港におけるヒヤリハット」

国土交通省航空局交通管制部運用課 航空管制運航情報調査官 前地 沙織 氏

AFIS空港の概要や運航情報官の業務についてご紹介いただいた後、AFIS空港において実際に発生したヒヤリハット事例について、運航情報官の視点から解説していただきました。AFIS空港では、運航情報官が航空機の判断に必要な情報を提供し、操縦士が自ら判断して行動するという認識が重要であるとのことでした。また、双方が「伝える・聞く・確かめる」というシンプルな行動を徹底することが、AFIS空港の安全につながるとのことお言葉をいただきました。AFIS空港の特色を改めて理解し、みんなで空の安全につなげていきたいと感じました。



●講演3「日本サバイバルトレーニングセンターとヘリコプター乗員向け不時着対応訓練のご紹介」

ニッスイマリン工業株式会社 日本サバイバルトレーニングセンター 訓練課長 江口 洋平 氏



ヘリコプター不時着対応訓練中の動画を用い、施設や訓練内容についてご紹介いただきました。また、国内外の着水事故事例の紹介を通じて、訓練の重要性を改めて認識することができました。日本サバイバルトレーニングセンターでは、講義および実技訓練を通じて緊急対応能力を養うだけでなく、普段は意識することの少ない「気づき」を持ち帰ってほしいという方針の下、救命胴衣の使用方法など、日頃からの備えの重要性が示されました。実際に訓練を体験することで、万が一事故に遭遇した際にも落ち着いて対処できるようになるとのことで、最後には「訓練は命を守る第一歩」というお言葉をいただきました。

●講演4「技能発揮訓練について」

国土交通省航空局安全部安全政策課 小型航空機安全対策官 佐孝 昌平 氏

冒頭に近年の小型航空機における事故状況についてご説明いただきました。操縦士のヒューマンエラーが要因と考えられる事故が多くを占めていることから、訓練義務化に至った経緯についても解説がありました。本訓練は、小型機運航者を含むすべての操縦士を対象としていることから、参加者の関心も非常に高く、講演後には活発な質疑応答が行われました。あわせて、技能発揮訓練のポータルサイトについてもご紹介いただきました。



●講演5「高温と低温の影響」

JAPA航空気象委員会 委員長 山本 秀生



近年の日本では各地で最高気温が更新されており、航空機の性能への影響も大きくなっています。講演では、大型機のみならず、プライベートで小型機の操縦も行っている立場から、ピストン機およびタービン機への影響の違いについてもご説明いただきました。また、高温となるメカニズムについても、気象予報士の視点から解説していただき、理解を深めることができました。一方、低温時については、機体着氷の危険性だけでなく、気温低下に伴う絶対高度の低下によるリスクなどについても、改めて認識する機会となりました。最後に、「臆病者の勇気をもって、春夏秋冬を通じて安全な飛行に努めてください」とのコメントがありました。

「意見交換会」(17～19時 航空会館703号室)

1日目のセミナー終了後には、有志による意見交換会を開催しました。当日はケータリングによる飲食に加え、Leonardo社からワインの差し入れもあり、受講者およびビジネス航空委員会スタッフ24名が参加し、活発な意見交換が行われました。講演内容を踏まえた議論や現場での経験談など、大変有意義なハンガートークの時間となりました。



●講演6「実地試験等について」

国土交通省東京航空局保安部 航空従事者試験官 飯島 和重 氏



講演目標として「参加者の皆様と相互理解を図り、航空安全のための気づきを共有する」との考えをご提示いただきました。講演では、業務概要や試験実績についてご説明いただいたほか、航空局が提供している安全情報についてもご紹介いただきました。また、これまでのご経験を踏まえ、「航空安全 胸の内」として、「操縦が上手でも事故は起きる。事故は“判断の質”から始まる」という印象的なお言葉や、「試験官が危険を感じる瞬間」についても明かしていただきました。「試験という形で事故の手前を見極めること」が試験官の務めであるとお話から、私たち自身もその視点を共有し、ともにさらなる航空安全につなげていきたいと感じました。

●講演7「運航審査等について」

国土交通省東京航空局安全統括室 運航審査官 加納 洋一 氏

運航審査官の職務についてご紹介いただきました。審査を行う側は、中立かつ厳正な立場で臨むことが重要であるとのことでした。非常操作についても、単に手順を遂行できるだけでなく、機長としての総合的なマネジメント能力が重視されており、実際に近い状況を付与することで、知識に加えて応用力についても確認しているとのことでした。また、前回の定期審査等における評価を踏まえたうえで、一年先まで見据えた評価を行う必要があるとの説明がありました。



●講演8「航空事故分析集について」

運輸安全委員会事務局総務課事故防止分析室 事故調査専門官 岡田 孝和 氏



事故防止分析室の概要に加え、近年の航空事故および重大インシデント事例についてご説明いただきました。統計からは、滑走路誤進入などのヒューマンエラーが要因の多くを占めていることや、ベテランの操縦士であっても操縦経験の少ない型式では事故等が多い傾向にあることが示されました。こうした事故等の発生要因に関する統計を基に、再発防止策が航空事故分析集へ反映されているとのこと。また、JAPAからの依頼により、小型機に関わる二つの航空事故分析集について詳細にご説明いただきました。

●講演9「航空機乗組員の健康管理と航空身体検査」

島根県立中央病院 指定航空身体検査医 石田 亮介 先生

ご自身も操縦士として米国でCFIのライセンスをお持ちになり国内でもプライベートで飛行を楽しまれている立場から、操縦士と指定医の両方の視点で航空身体検査制度についてご説明いただきました。身体検査の有効期限内であっても、不適合状態となり得るという認識の重要性を、改めて感じる内容でした。また、大臣判定に関するお話については、実際に携わっている指定医の視点から、具体的にご説明いただきました。個人管理が基本となる小型機操縦者にとっては、ルールの趣旨を正しく理解した上で、疑義がある場合には積極的に指定医へ相談し、不適合状態での飛行を行わないことが重要であると感じました。



閉会の辞

日本航空機操縦士協会 副会長 大澤 一郎



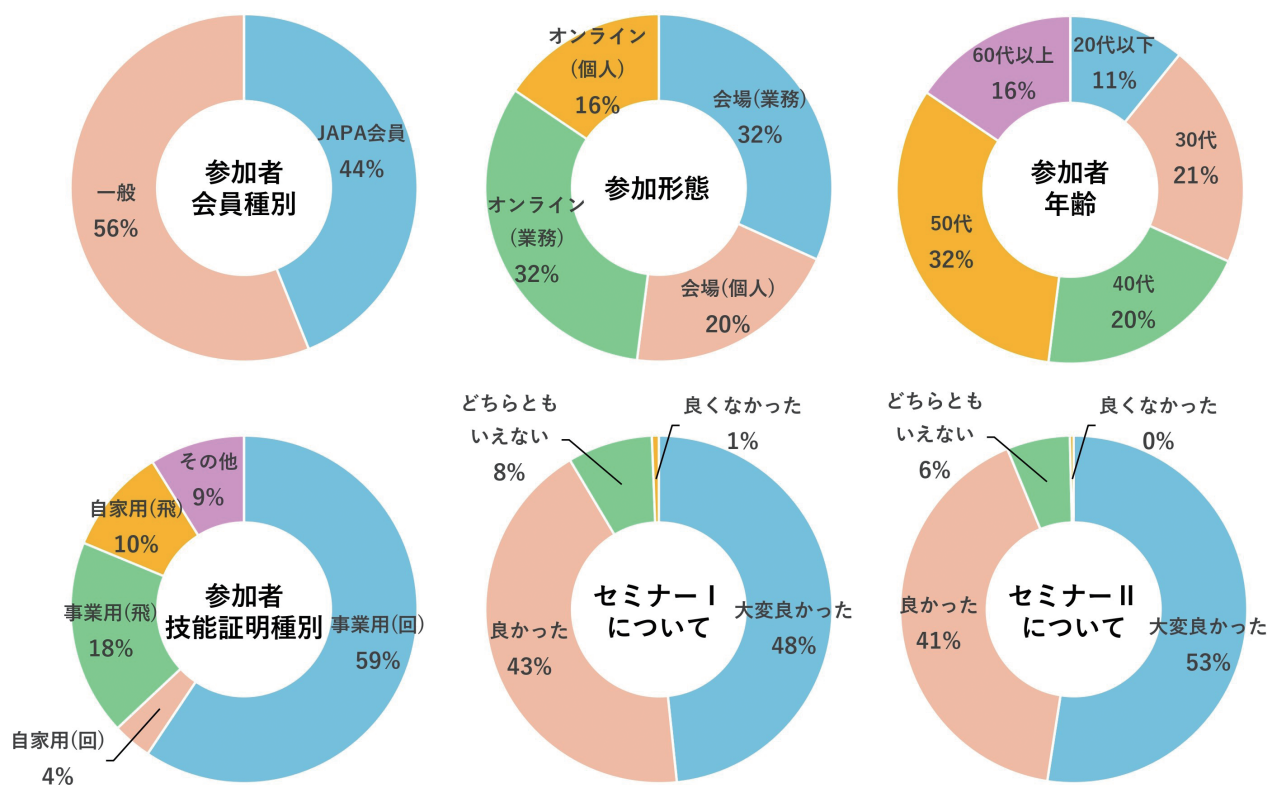
本セミナーの内容が、参加者の皆様の今後の安全向上の一助となりましたら幸いに存じます。このようなセミナーを継続的に開催していくため、JAPAの取り組みにご賛同いただける方がいらっしゃいましたら、ぜひご入会のご検討をお願い申し上げます。講演中にございました技能発揮訓練につきましても、JAPAにおいて受講いただけるよう現在検討を進めております。最新情報につきましては、ホームページ等にてご確認ください。本年も安全運航を心がけ、無理のない飛行をお願いします。

アンケート結果

本セミナーは大変有意義であり、特に最近の事故事例に対応した不時着対応訓練や航空身体検査について、興味深かったとの意見が多く寄せられました。航空局からの法改正や安全情報の説明は今後の運航に非常に有益であるとの声がありました。

下記、参加者の皆様からご回答いただいた参加者統計とご意見の一部をご紹介します。

- ・形式的にならず、徹底して運航者に必要不可欠な情報や知識の提供があり、今後も継続して参加したい。
- ・Webでの参加は、業務上非常に助かるので継続してほしい。
- ・どの講演も具体例を用いた説明があり、大変わかりやすかった。
- ・日本サバイバルトレーニングセンターのような施設が国内にあることを知らなかったので参考になった。
- ・航空局の情報発信するサイトも確認でき、最新の情報を基に安全運航をしていこうと感じた。
- ・実地試験や運航審査に関して業務で関わっており、知識のリマインドができた。
- ・航空機乗組員の健康管理と航空身体検査が、指定医と操縦士の両目線で講演いただき参考になった。



※参加者集計・参加形態についてはセミナーⅠ及びⅡの合算値

2026年度 開催予定

2026年度の小型航空機セーフティセミナーは、2027年2月4日(木)、5日(金)に新橋の航空会館にて開催を予定しております。プログラムや受付開始時期などの詳細につきましては、準備が整い次第、JAPAホームページおよびメールマガジン等でご案内いたします。参加者の皆様から頂戴した貴重なご意見を反映し、より良いセミナーの開催を目指してまいります。講演内容やセミナーに関するご要望等がございましたら、事務局までメールにてご連絡ください。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

Be a pilot オンラインセミナー “Talk with us”実施報告

エアライン委員長 大里 将之

2026年3月29日（土）に実施した「Be a pilotオンラインセミナー“Talk with us”」についてご紹介をいたします。

●Be a pilotオンラインセミナーとは

エアライン委員会には委員・運営委員として国内エアライン所属の副操縦士、機長、機長OBが在籍、活動しています。JAPAの活動目的の中でも、主にすそ野拡大事業を担い、航空業界の操縦士を目指す若者たちの支援を目的としたイベントを行っています。

Be a pilotは、「若い人にパイロットの魅力を届ける」ことを目的として発足したJAPAの活動の総称です。昨今、パイロットになる方法を紹介する媒体はいくつもありますが、パイロット自らが空を飛ぶ楽しさ、魅力を発信しているものはまだまだ多くはありません。JAPAには

様々なパイロットが所属しています。我々が自らパイロットの魅力を伝え、一人でも多くの若者にパイロットを目指してほしいという想いでこの活動はスタートしました。その中でもオンラインセミナーはコロナ禍にてすそ野拡大活動ができなかった際にゼロから立ち上げたイベントであり、今回の開催が一昨年以来、4回目となりました。

現在は当イベント立ち上げ時の情勢とは異なり、各種対面イベントは実施できていますが、一方で乗員養成の現場にて訓練機材の整備状況に起因する訓練の進捗遅れや、エアライン就職希望者の就職状況についての課題が存在している実態があります。これまではパイロットの魅力を届けて、パイロットを目指す若者の背中の後押しすることを主眼としてきましたが、今回はパイロットを目指すにあたり、主に初期訓練の乗員養成の場にて発生しているネガティブな面の伝達も織り交ぜた上でこれからパイロットを目指す中高生を応援するというテーマに取り組みました。

●テーマは「パイロットを目指す“航空大学校”ってどんなところ？」

前回テーマとして採用した「私立大学の操縦学科」に引き続き、今回のテーマは、航空大学校における乗員養成に焦点を当てることにしました。これは前回の「基礎課程からの乗員養成」のテーマを引き継ぐとともに、昨年末に新聞等にて航空大学校における訓練の進捗停滞が報じられたこともあり、リアルな現状を参加者に伝えたいということでテーマに選びました。

●当日の内容

当日はエアライン委員会所属の三浦雄児機長が司会進行を担当し、2025年6月に航空大学校を卒業され現在全日本空輸株式会社整備センターにて地上業務研修中の阿部圭吾さんにゲストスピーカーとしてご協力を賜りました。（阿部さんのご出演にあたってはANA整備センターにも多大なるご尽力をいただき、ANAでの業務調整など格別のご配慮を頂戴いたしました。この場をお借りしまして改めてお礼申し上げます）

前半部分は、航空大学校以外も含めてエアラインパイロットになるための一般的な進路紹介等を行った他、司会の三浦さん、ゲストの阿部さんの対話形式＆手作りのスライド資料を用いて航空大学校の概要の



配信中の様子



司会の三浦さん（スカイマーク）と
ゲストの阿部さん（ANA）

他、訓練や寮での生活、就職状況等を掘り下げて紹介しました。

航空大学校の概要については、司会の三浦さんが在籍されていた2008年までと比較し、募集定員が72名から108名に増員されていること。最新の募集要項によると卒業まで約500万円の入学料・授業料がかかること。入学～卒業まで24ヶ月の教育期間であるものの、悪天候や訓練機材トラブル等が発生し、阿部さんの在学期間中はそれぞれ2回の、トータル1年4か月ほどの待機期間が発生したこと。待機期間中、学生の皆さんは休学中の大学、大学院への復学や英語能力を磨くためのワーキングホリデー、語学留学プログラムへの参加。学費補填のため

のアルバイトなど、各自が時間を有効に活用されていたこと。阿部さんのご同期のうち、同時に卒業された25名全員がエアライン、使用事業、航空大学校飛行教官として就職している状況が共有されました。

また、当日司会を担当された三浦さんは宮崎がご実家ということもあり訓練生の普段の生活面や地域のお祭り等のイベント参加など宮崎での訓練中の掘り下げた話が展開されました。

当日2時間実施したイベントのうち、後半部分の50分は質疑応答コーナーを設定しました。過去のセミナーにてよく挙げられた質問や想定質問を抽出し、三浦さん、阿部さんが回答する形にて進行しました。

阿部さんからは、「中学校、高校生活中に取り組んでいてよかったこと」の経験談としてバスケット部の部活動が、訓練中の多忙な生活に耐えうる体力面での基礎となったこと。同期と協働にて訓練へ取り組む姿勢のきっかけとなったこと。パイロットになるうえで必要な英語能力に関する質問では、阿部さんは大学在学中、オンライン英会話を受講されていたこと。運航にて日本語を母語としない方と業務をされることもある三浦さんからは直接の業務にはある程度の英語能力や専門用語にて支障はないものの、巡航中のプライベートな会話が良好な人間関係を築く上で重要であることが紹介されました。その他、航空大学校受験について、操縦適性試験の試験対策や、同期の中での大学卒業者と中退、休学者の割合、女性学生の割合について紹介を行いました。

オンラインでの参加者からも「航空大学校入学後の訓練の順番（回期）はどのように決まるのか？」「同期や同僚を見ていて人格、性格の共通点はあるか？」「自社養成、私立大学、航空大学校の採用ソース別で特徴はあるか？」「訓練費用等、金銭面以外の航空大学校志望理由は？」「自社養成受験時の身体検査にて選考から落ちてしまったが、航空大学校卒業後同様の理由によりエアラインに就職できない可能性はあるか？」「卒業後の就職先は自分の希望で選択できるのか？学生は実際にどのような観点で就職先を選択しているのか？」等の関連な質問が挙げられ、それをもとに三浦さん、阿部さんの経験談を基にしたトークも膨らみ、予定していた50分があっという間に経過しました。

最後に「これからパイロットを目指す皆さんへ」と題してお二人から“積極的にパイロットを目指してもらいたい”という熱いメッセージをいただき締めくくりました。

●YouTubeオンラインライブ配信

当日の配信形式は出入り自由かつ事前申し込み不要な完全ライブ方式にて行いました。過去のBe a pilotオンラインセミナーでは参加者の属性をある程度把握するため、事前申し込み制としていましたが、今回はより多くの参加者に気軽に参加していただきたく上記の参加形式を選択しました。

事前に周知期間を十分に確保できなかったこともあり、



YouTube JAPAチャンネルにて視聴可能です

常時参加されていたのは30名弱でしたが、開催中の2時間に200名前後の参加をいただきました。当初は我々主催のオンラインイベントとしては初めての非事前申し込み制にて、所謂“荒らし対策”も必要になるかと危惧していたのですが、実際には杞憂に終わり、成功裏にイベントを終了することができました。

当該イベントの様子は現在YouTube上のJAPAチャンネルにアーカイブされておりいつでも視聴可能です。<https://www.youtube.com/live/VMKtplhpexQ?si=VaizgnhdQ68dTRAj>

6月中旬現在1300名程の方々に視聴いただいております。その他のエアライン委員会の活動、JAPAの諸活動も当該チャンネルにて紹介されておりますので是非ご覧ください。

● イベントを終えて

今回のイベントに講師として参加された阿部さんは過去JAPAのエアライン委員会のイベントである「Fly with us～空の仕事ワークショップ」にご参加いただいたことを縁として、「自分のような後輩がパイロットを目指す応援がしたい」という思いで今回のイベントにご参加いただきました。昨今、学生時代にエアライン委員会主催のイベントに参加された方々の着実にパイロットへの道を歩まれている報告を耳にすることがあり、JAPAのすそ野拡大活動が地道ながら結果と結びついていること。そのような方々がまた後輩の応援を行いたいと我々のイベントへの手助けをしてくれるというサイクルが起きていることを大変うれしく思います。

今回のイベントは国内エアライン所属の委員のみにて、企画から配信まで全て手作業にて実施した手作りのイベントです。各々のスケジュールの確保のために乗務後の深夜にオンラインにて打ち合わせを実施したこともありましたが、無事に成功裏に終わると達成感もひとしおのものがありません。

最後に、JAPAエアライン委員会では運営に協力をいただける新規メンバーを募集しております。ご興味をお持ちの方がいらっしゃいましたら大歓迎です。以下まで是非ご連絡ください。

airline-japa@googlegroups.com



出演者と当日の配信サポートメンバー

支部紹介 ～東日本支部～

東日本支部の活動について

東日本支部 副支部長 本田 厚

東日本支部は、日本航空機操縦士協会の東日本地域における活動拠点として、航空安全の推進および操縦士の資質向上を目的に活動しております。近年、航空を取り巻く環境は運航の高度化や空域利用の多様化により、ますます複雑化しています。

このような状況の中、当支部では東日本エリアにおける管制空域会議への参加を通じて、運航現場の視点に立った意見発信を行い、安全かつ円滑な空域運用に貢献しております。また、東京ヘリポートや仙台空港に加え、松本空港、群馬ヘリポート、調布飛行場など、東日本各地の空港・ヘリポートで開催される航空行事において、航空教室の実施や体験型FTD（フライト・トレーニング・デバイス）の設置を行い、航空の魅力と安全の重要性を広く社会に発信しています。

これらの活動は、将来の航空人材である青少年の育成に寄与するとともに、地域社会とのつながりを深める重要な取り組みであると考えております。さらに、会員相互の連携を基盤とした研修会や情報共有を通じて、操縦士としての知識・技能の向上を図り、安全文化の醸成にも継続的に取り組んでいます。空の安全は、一人ひとりの不断的努力によって支えられています。

東日本支部は、今後も専門家集団としての責任を果たし、社会から信頼される航空の実現に向けて邁進してまいります。皆様のご理解とご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。



スカイフェスティバル in 松本



群馬ヘリポートフェスタ



調布飛行場祭り



支部紹介 ～九州支部～

活動報告

九州支部長 三好 恒紀

九州支部は、ジェネアビなどの使用事業、官公庁のパイロットを中心に構成されており、支部長を含む10人の支部役員が行事などを企画・運営しています。主な活動としては、年2回の支部委員会、年1回の総会や支部主催行事の実施、地域イベントへの支援活動などを行っています。活動の中心である熊本には、3,000mの滑走路を有する「阿蘇くまもと空港」があり、誘導路で直接つながっている「県営エプロン」には多種多様な機体が駐機していて、九州のジェネアビの中心地となっています。最近の支部主催行事をご紹介します。

☆福岡タワー見学会

2025年10月30日、福岡空港国際線ターミナルに13人が集合し、国内で2番目の高さを誇り、前年12月に供用開始された新管制塔の見学に向かいました。まず、真新しい庁舎の会議室で、空港の沿革、施設、路線などの概要説明が行われました。新設された平行滑走路（16R／34L・2500m）は主に離陸に使用しているそうで、新旧滑走路間のクリアランス自体は基準を満たしているものの、ゴーアラウンドなどを考慮すると、両方の滑走路での同時離着陸運用は難しいとのことでした。

説明の後、いよいよエレベーターでタワーへ。残念ながら運用中の管制室内には入れませんでしたが、その直下にある四方が見渡せる70m地点まで昇りました。到着するやいなや参加者から「Barとか開いたら良いのに…」、等という声も聞かれるほどの眺望の良さでした。保安上の理由で写真が撮影できなかったのが残念ですが、2本の滑走路とも全体が非常によく見渡せました。管制官との意見交換会も開かれ大変充実した内容となりました。



新管制塔は国際線ターミナル側にあります。なかなか高い！

☆新田原基地見学会

2025年2月18日、絶好のコンディションのもと実施された見学会には、14人が航空自衛隊 新田原基地（宮崎県児湯郡新富町）に集結しました。日本の領空を守るため、24時間365日スクランブルにあたるという、過酷かつ重責を担っている基地で、実戦部隊の他に航空自衛隊で唯一、F-15戦闘機の乗員を養成している飛行教育航空隊も併設されています。

今回、ほぼ全員がパイロットという特殊な団体であることから、宮崎空港周辺をフライトする際にお世話になる「NYUTA TOWER」や、精密進入レーダーによる着陸誘導管制を行っている施設などを見学させていただきました。マニアックな質問がたくさん飛び交いましたが丁寧にご説明いただき、皆さん得心したようでした。1機100億円以上するF-15が多数、それも整然と並べられている様子は壮観でした。基地の皆さんはとてもフレンドリーで、大変楽しく充実した見学会となりました。



F-4EJ（改）ファントムⅡを前に記念撮影。かなり大きい！



F-15がたくさん！



九州支部:

<https://www.japa-kyushu.org/>

いのちをつなぐ
おもいをつなぐ
社会をつなぐ



NAKANIHON AIR

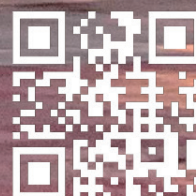
中日本航空株式会社

〒480-0202

愛知県西春日井郡豊山町大字豊場字殿釜 2 番地 県営名古屋空港内

Tell:0568-28-2151

公式HPはこちら



随時、中途加入を受け付け中です

詳細は協会ホームページをご参照ください

JAPA団体保険のご案内

団体割引15%適用で加入しやすい保険です

団体割引
15%

68才
まで補償

最長68才(タイプG、H)までの収入減少を補償します！

制度その1

団体長期障害所得補償保険制度

(団体総合生活補償保険 傷害補償 (MS&AD型) 特約・所得補償特約セット、団体長期障害所得補償保険)

- ・この制度は、私たちがケガや病気によって長期にわたり仕事ができなくなった場合に、私たちの収入を補償する制度です。
- ・タイプG、Hにご加入の場合、最長68才まで就業障害による収入減少を補償します。



国内・国外を
問わず補償します



安心して働いて
いただくために



ケガや病気で仕事ができない間、
最長68才まで補償を継続して
受けることができます

制度その2

団体総合補償制度

(団体総合生活補償保険 傷害補償 (MS&AD型) 特約、がん補償特約、疾病補償特約セット)

- ・ケガ、病気、賠償責任などのさまざまなニーズに対応し、皆さまの健康を応援します。
- ・がん保険・医療保険は、ご家族のみでも加入できます。

- 中途加入締切日 : 毎月20日締め、翌月1日中途加入
- お申込先 : 株式会社JALUX保険サービス
- 保険期間 (ご契約期間) : 加入月から2027年 (令和9年) 3月1日午後4時まで
- 保険料払込方法 : 口座振替 (加入月より毎月27日に引き落とし)

※金融機関が休業日の場合は、翌営業日 ※株式会社アプラスより集金代行いたします

※このご案内は団体長期障害所得補償保険および団体総合生活補償保険の概要を説明したものです。ご加入にあたっては必ず「JAPA団体保険のご案内」パンフレットおよび「重要事項のご説明 契約概要のご説明・注意喚起情報のご説明」をあわせてご覧ください。また、詳しくは「ご契約のしおり (普通保険約款・特約)」をご用意していますので、取扱代理店または引受保険会社までご請求ください。ご不明な点につきましては、取扱代理店または引受保険会社にお問合わせください。

<取扱代理店>

株式会社JALUX保険サービス

〒140-0002 東京都品川区東品川2-3-14 東京フロントテラス18F

TEL : 0120-25-8400 FAX : 03-5460-7221

※音声ガイダンスのあとに④番を押してください。

<引受保険会社>

あいおいニッセイ同和損害保険株式会社

東京企業営業第6部 営業第2課

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台4丁目6番地

御茶ノ水ソラシティ15階

TEL : 050-3461-1052

(2026年6月承認) B26-200308

～ 表 彰 報 告 ～

航空関係事業の発展に尽力し、その功績が顕著であり、且つ各職種においての成績が優秀な会員の方を協会より推薦させていただいております。受賞者の皆さま、おめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。

春の黄綬褒章

黒田 誠 様 (全日本空輸)
鷲尾 茂樹 様 (日本航空)
冨田 史宣 様 (日本エアコミューター)



5月25日 黄綬褒章伝達式

会長奨励賞

菱田 真郷 様 (崇城大学)	久道 眞優 様 (桜美林大学)	足立 能愛 様 (法政大学)
勝木 陽大 様 (東海大学)	池淵 佑 様 (千葉科学大学)	山本 俊輔 様 (第一工科大学)

協会長表彰

薬師寺 進 様 (東日本支部)	大関 春樹 様 (北海道支部)	山下 博一 様 (全日本空輸)
調 賢治 様 (全日本空輸)	小林 仁 様 (全日本空輸)	吉田 祥典 様 (新日本ヘリコプター)
大谷 典正 様 (読売新聞)		

※航空界に貢献された会員に対しJAPA会長が行う表彰

飛行時間2万時間以上の 特別表彰

藤本 吉史 様

※飛行時間2万時間を超えた会員に対しJAPA会長が行う表彰



6月19日 協会長表彰授与式



会員 福利厚生のご案内



レンタカー

● 日産レンタカー

全国予約センター 0120-00-1767 (平日8:00～20:00 土・日・祝9:00～18:00)

ご予約・お問い合わせの際は当協会の会員である旨、および会員ページに記載のある日産レンタカー会員コードをお伝えください。

● オリックスレンタカー

中央予約センター 0120-89-0543

予約の際は、電話で「法人コード901-25075の日本航空機操縦士協会」と必ずお伝えください。

※レンタカー利用料金が改訂されました。(2024年12月2日以降)



利用方法を詳しく明記しておりますので、お電話される前に必ずJAPAホームページ内の会員特典をご覧ください。



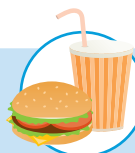
ショッピング

● 鳳文書林出版販売 発行書籍

10%割引

● JAL PLAZA (全国24空港) 5%割引

● 高島屋 (一部) 5%割引



お食事

● 東京エアポートレストラン

(羽田空港第1、第2、第3ターミナル)

● 銀座ライオン 現金支払10%割引

羽田空港マーケットプレイス店

ブラッセリー銀座ライオン羽田空港店



宿泊・ゴルフ

● リーガロイヤルホテルグループ

(割引対象 東京・大阪・京都 他)

● ゴルフカントリークラブ

ロイヤル高松カントリークラブ (香川)

霧島ゴルフクラブ (鹿児島)



協会顧問弁護士への相談

会員の皆さまが法律上のご相談をご希望の際にも、弁護士事務所へご相談が可能です。(対応は平日の日中帯、費用は相談者さまの負担となります。)

弁護士事務所のご連絡先は以下会員ページへアクセスの上ご確認ください。

<https://member.japa.or.jp/2299>

各施設のご利用方法や詳細はJAPAホームページをご参照ください。

<https://www.japa.or.jp/member/tokuten>

**JAPA会員に
ご入会頂けますと
特典盛り沢山!**

- ★最新のAIM-Jのお届け(年2回)、パイロット手帳(希望者のみ)のお届け
 - ★電子書籍(オフラインでも利用可能です)
 - ★会員限定ロスオブライセンスの加入
(最長で68歳まで所得補償を継続して受けることができます)
 - ★JAPASHOP・フライトシミュレーター(FTD)・セミナーの会員割引 等
- ※一部特典は会員資格により適用されない場合があります。

【お知らせ】2027年版PILOT HANDBOOK(手帳)配布申し込みについて

お申し込み要領

現在会員ページにて配布お申し込みを受付けております、2027年版PILOT HANDBOOK(手帳)を送付希望の方は2026年8月末までにお申し込みください。

配布を希望される方におかれましてはお早めにお申し込みのほどお願い申し上げます。
尚、すでに2026年版をお申し込みいただいている方におかれましてはご対応不要です。



住所などの会員情報更新のお願い

会員ページはこちら

お引越しなどで住所などが変更になった場合は、速やかに会員ページより情報の変更をお願いいたします。会員ページへのアクセスについてご不明な際は、ご案内いたしますので事務局までご連絡願います。ご協力、よろしくお願い申し上げます。



会費のクレジットカード決済

クレジットカードでの年会費のお支払いが可能です。カード決済をご希望の方は、会員ページよりクレジットカードのご登録をお願いいたします。

ご登録方法



お知らせ

収支改善のため当面の間、パイロット誌Summer号は、電子書籍のみの配信となり、冊子の郵送は行いませんので会員の皆さまにおかれましては、ご理解のほどよろしくお願い申し上げます。

今後のJAPAセミナー開催予定

セミナータイトル	開催日／開催地区
Fly with us ～空の仕事ワークショップ～	2026年9月5日(土)《兵庫》神戸空港内団体待合室
	2026年10月24日(土)《愛知》名城大学
	2026年11月14日(土)《福岡》アクロス福岡
	2026年12月19日(土)《沖縄》琉球大学
RNAV講演会	第2回 日程調整中(来場+オンライン)
	第3回 日程調整中(来場+オンライン)
小型航空機セーフティセミナー	2027年2月4日(木)、5日(金)航空会館(来場+オンライン)
航空安全講習会	2026年8月23日(日)《東京》JAPA会議室(来場+オンライン)
	2026年11月22日(日)《東京》JAPA会議室(来場+オンライン)
	2027年2月28日(日)《東京》JAPA会議室(来場+オンライン)
ATS シンポジウム	2026年10月17日(土) オンライン開催
航空気象シンポジウム	2026年11月28日(土) 航空会館(来場+オンライン)
New 技能発揮訓練 (TEM/CRMセミナー)	「TEM/CRM セミナー基礎コース」は「技能発揮訓練アドバンスドコース」として新しく生まれ変わります。現在、登録機関の申請を進めており、申請が承認された後、11月下旬に「技能発揮訓練アドバンスドコース」を実施する予定です。さらに12月からは、毎月1回「技能発揮訓練スタンダードコース」も開催します。どちらのコースでも「技能発揮訓練修了証明書」が発行されます。実施予定等詳しくはホームページでご案内いたします。

入会のご案内

当協会は現在約6,500名の会員が所属しており、エアライン、航空事業会社、官公庁および自家用操縦士などの会員により構成されております。皆さまも航空業界の仲間たちと共に活動しませんか？

◆入会方法

1. 入会申込フォームにて必要項目を入力し、JAPAに送信してください。
2. 協会より会員特典などを送付させていただきます。
(会員資格・特典・会費などについてはホームページをご参照ください。)

日本航空機操縦士協会について
詳しくは JAPA ホームページへ

www.japa.or.jp

JAPA

検索

◆申込受付の開始については、JAPA ホームページ、メールマガジンでご案内いたします。

パイロット

Vol. 29
2026 Summer

発行 公益社団法人 日本航空機操縦士協会
(Japan Aircraft Pilot Association)

〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-3
TEL 03-6809-2902(代) FAX 03-3434-7774
JAPAホームページ URL <https://www.japa.or.jp/>
E-mail: japa@japa.or.jp

禁無断転載

落丁・乱丁本がありましたらお取替えいたします

編集 広報企画委員会
発行 池田 晃二
印刷 有限会社アートライン